

文芸ひろば

詠歌の紹介

千代田俳句同好会

朝冷や神のあたむ井戸の水
山裾の続く稲田鷺歩む
つましく紅うすらと四季桜
店頭につかみこころのなまき瓜
たわわなる柿無視さるる世が世かな

榊原清志
桜井愛子
桜井筑娃
中島暉子
萩原初枝

紫陽花俳句会

炊きたてに新米の幸かみしめる
むかご飯戦なき国孫と食む
赤く燃え横なぐりの雨万寿沙華
電線に一点激し鴉鳴けり

飯田 功
田能 幸雄
萩原とし子
福田 宏通

出島短歌会

ははそはの母のてのひら新キャベツなつかしきかな里のキッチン
寒き雨降る踏切を渡りゆく跨しレールの光は青し
秋湿り孤独な風に引きずられたに急しく月日は移る
ハロウィーンのかぼちゃ火ともる月曜日誰に似し笑みまめけなお化け

飯島ヒロエ
岡田恭子
名倉親子
浜田留子

投稿作品

年老いて学びの心薄らきて読書の秋に我を省み
秋日和妹と交わす歌談義刻を忘れて西日傾く
手をとりて十歳の我に励むと論せし恩師よ白菊添える
「考いる筆」も「風にそよぐ筆」も同じか等と無為徒食なり湖辺り散策
人の波人生衣見るように少し離れて休む止り木
柚子風呂に幸せはか冬至の日

石塚 清
沽野はつ子
中島良平
菅谷味子
吉田正道
扶美世

▶投稿作品(俳句・短歌・川柳)を募集しています。12月1日(日)までに情報広報課(〒300-0192 大和田562番地)へお願いします。
なお、応募多数な場合には掲載されない場合がありますのでご了承ください。

わがふるさと 史宝をたずねて

市民学芸員が行く

シリーズ⑧

霞ヶ浦の風物詩 帆引き船物語

発明のきっかけ

帆引き網漁法は、明治13年に折本良平によって発明されました。良平が漁を手伝っていたころは、大徳網漁が一般的な漁法で、網元が14、15名の引き手を雇い漁を行っていました。その収入を人数で割っていたため収入も少なく苦しい生活だったようです。良平は、少人数でもたくさん漁獲が上げられる漁法をいつも考えていました。

風力の利用

良平は、高瀬舟や小型帆掛け船を動かす風力を利用して網を引たいだろうかと考えたようです。サツパ船に帆を揚げ、その先に網をつなげてみました。しかし、網を引くことができるけれど、舟が湖上で安定しない上、うまくいって魚が網に入っていきません。そこで良平は、風を受けて空に舞う風を見、帆を風のように空中に吊り上げるようにしたら転覆を防げるかもしれないかと思い、帆と網とを繋げる縄を工夫して、帆の上方に当たるようにしてみました。そうすることで魚が入る網の口を立体的に開くことができ、たくさん魚が捕獲できるようにするとともに、舟が横向きに安定して流れるようになりました。

帆引き船のしくみ

帆引き船は、船の大きさに比べ大きな帆を利用して引きます。特に横幅は船体のほぼ2倍で、1反の布を3枚合わせ細長い1枚の布を作り、この布を14、16枚繋げて1枚の帆とします。布と布は口でたすき状に絡めてあります。帆全体で風を受けると半球に近い形に膨らみ、1枚1枚の布も半球形に膨らむよう工夫されています。帆の膨らみは、風力を逃がしにくくする効果があり、風力を効率よく利用することができるとなりました。

霞ヶ浦の風物詩の再現

折本良平の発明から幾度となく改良され、明治35年ごろには、サツパ船からチヨキ船(みよし船)に変化していきました。帆引き船が最も多かったのは昭和20、30年代で霞ヶ浦・北浦と合計900艘にも達し、それはまさに霞ヶ浦の風物詩になったのです。また、帆引き船は、平成26年には市指定文化財に指定されました。帆引き船はかすみがうら市が発祥地です。大切な観光資源です。有効に活用し歩道周辺を活性化させましょう。

郷土資料館

☎029(896)0017

(深井 征一郎)



①



②



⑧



⑥



④

①下稲吉の山車と逆西9区の獅子が共演②販売ブースにはたくさんの農水産物や加工品が並びました③KSCなかよスポーツクラブによるよさこい披露④千代田公民館講堂では市内小中学校児童・生徒による作品が展示されました⑤会場は多くの来場者でにぎわいました⑥会場にはふるさと応援隊ガウラーCの姿も!⑦白バイとパトカーの展示は小さいお子さんに大人気⑧山本あきさんの歌声が会場に響き渡り観客を魅了しました⑨上佐谷小児童による太鼓発表⑩かすみがうら祭名物四万騎鍋



⑩

Camera Report

第12回 かすみがうら祭

11月3日、第12回かすみがうら祭が開催されました。

市民ふれあい広場ステージでは、上佐谷小学校児童による太鼓発表が行われ、今日まで練習してきた成果を十分に発揮し、力強い演奏を見せてくれました。メインイベントの歌謡ショーでは、大月みやこさんと山本あきさんが登場。素敵な歌声が澄み切った青空に響き渡り、観客の皆さんは割れんばかりの拍手を送っていました。

子ども広場では、祭礼団体の山車や獅子がお目見えし、小さいお子さんからお年寄りまでたくさんの方が楽しみました。名物四万騎鍋も大好評。鍋の前には長い行列が出来ました。

祭りを支えた実行委員会の方や出店した方、ステージで発表した方、作品を展示した方、来場した方など、たくさんの方の皆さんの「力」によって、かすみがうら祭の秋を彩るにぎやかな一日となりました。



かすみがうら祭 フォトアルバム